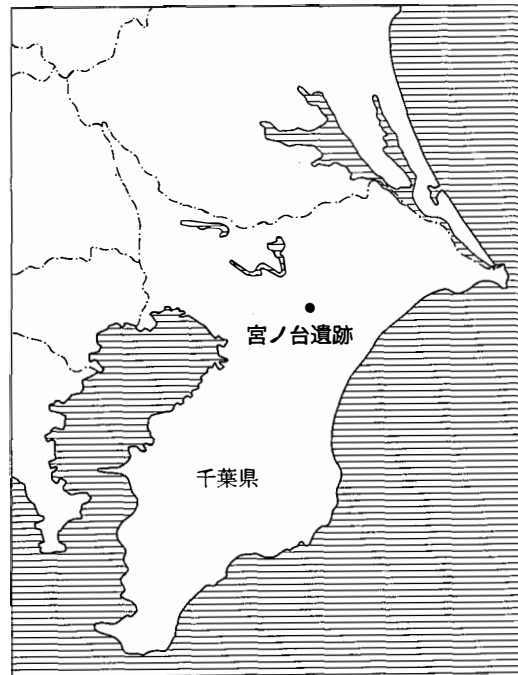


山武市宮ノ台遺跡

—国営北総中央農業水利事業4号調整水槽建設工事に伴う

埋蔵文化財調査報告書—



平成20年3月

関東農政局北総中央農業水利事業所
財団法人 千葉県教育振興財団

序 文

財団法人千葉県教育振興財団（文化財センター）は、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県教育振興財団調査報告第603集として、農林水産省関東農政局北総中央農業水利事業所の国営北総中央農業水利事業4号調整水槽建設工事に伴って実施した山武市宮ノ台遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々をはじめとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦勞をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成20年3月

財団法人 千葉県教育振興財団

理事長 福島 義弘

目 次

- 1 本書は、農林水産省関東農政局北総中央農業水利事業所による国営北総中央農業水利事業 4 号調整水槽建設工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
- 2 本書は下記の遺跡を収録したものである。
宮ノ台遺跡 千葉県山武市沖渡字堀ノ内 4 8 1 - 1 ほか (遺跡コード 237-002)
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、農林水産省関東農政局北総中央農業水利事業所の委託を受け、財団法人千葉県教育振興財団が実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業、本書の執筆・編集は、主席研究員 加藤正信が担当した。
- 5 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁教育振興部文化財課、関東農政局北総中央農業水利事業所、山武市教育委員会ほか多くの方々から御指導・御協力を得た。
- 6 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。
第 1 図 国土地理院発行 1/25,000地形図「八街」(NI-54-19-11-3) (昭和57年発行)
「酒々井」(NI-54-19-10-4) (昭和61年発行)
第 2 図 山武市発行 1/2,500地形図 (GIS 版) を編集
- 7 本書で使用した図面の方位はすべて座標北である。座標値については世界測地系を使用した。

本 文 目 次

I はじめに	
1 調査の経緯と経過	1
2 調査の方法	1
3 遺跡の位置と周辺環境	2
II 調査成果	
1 遺構	3
2 遺物	4
III まとめ	4
報告書抄録	巻末

挿 図 目 次

第 1 図 宮ノ台遺跡位置図 (1/25,000)	1	第 4 図 土層柱状図	3
第 2 図 宮ノ台遺跡周辺地形図(1/5,000)	2	第 5 図 遺構実測図	4
第 3 図 確認調査 (上・下層) 状況図	3		

図 版 目 次

図版 1 調査前・上層確認調査状況・下層確認調査状況・上層確認調査 2 トレンチ・下層確認調査 2 グリッド)	図版 2 下層 2 グリッド拡張区・SK-001・SK-002・出土遺物
---	--------------------------------------

I はじめに

1 調査の経緯と経過

農林水産省関東農政局北総中央農業水利事業所は、農業用水の有効・円滑な集・配水のため送水管の敷設や調整水槽の設置を各地に行ってきた。今回、流量調整用の調整水槽の設置が山武市沖渡に計画され、当該事業地に埋蔵文化財が所在することから、その取扱いについて関係諸機関と協議した。その結果事業の性格上記録保存することとなり、財団法人千葉県教育振興財団では、千葉県教育委員会の指導のもと、平成19年度に関東農政局北総中央農業水利事業所と委託契約を交わし発掘調査を実施し、整理作業を行い報告書刊行を実施した。各期間は、以下のとおりである。

調査期間 平成20年1月15日～同年1月31日（発掘調査） 調査対象面積 3,241㎡

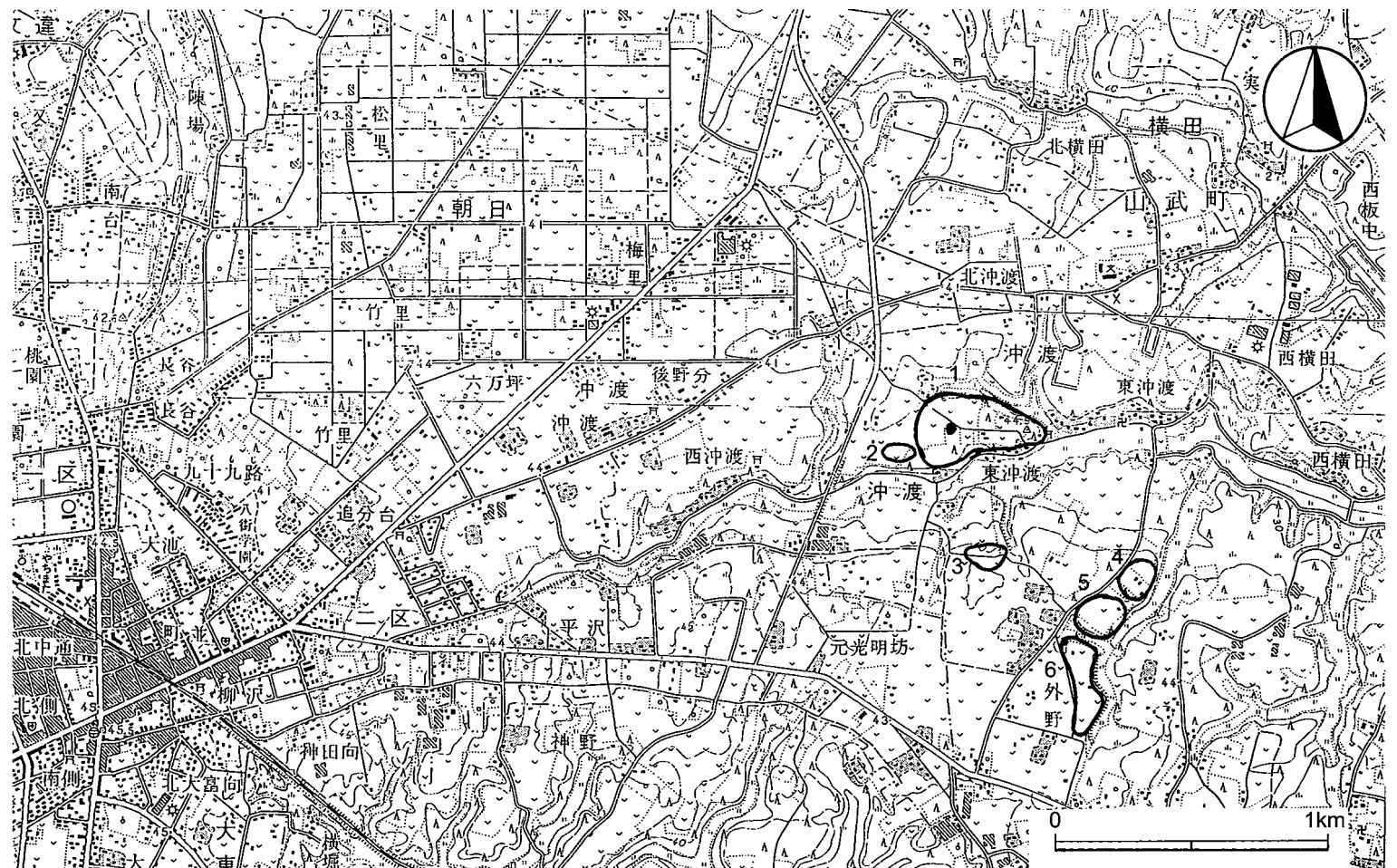
確認調査（上層）372㎡／3,241㎡、（下層）104㎡／3,241㎡

調査期間 平成20年2月1日～同年2月15日（整理）

調査研究部長 矢戸 三男 中央調査事務所長 折原 繁 担当者 主席研究員 加藤正信

2 調査の方法

調査対象地に対して上層10%、下層（ローム層）4%を目途に確認調査を実施し、遺構・遺物の検出された範囲を拡張して調査を実施した。まず上層調査として調査対象地に土地の形状に沿ってトレンチを設定し、重機を主体として表土を除去し、人力による精査を行った。検出した遺構は、トレンチを部分的に



- | | | |
|---------------|----------------|-------------------|
| 1 宮ノ台遺跡（縄文前期） | 2 東中新田遺跡（縄文早期） | 3 尾夏台遺跡（縄文後期） |
| 4 上室木遺跡（縄文早期） | 5 馬見谷遺跡（縄文前期） | 6 馬見谷遺跡（縄文早期, 奈良） |

() は『千葉県埋蔵文化財分布地図 (2) - 香取・海上・匝瑳・山武地区 (改訂版)』(平成10年5月25日発行) 記載の遺跡の時期

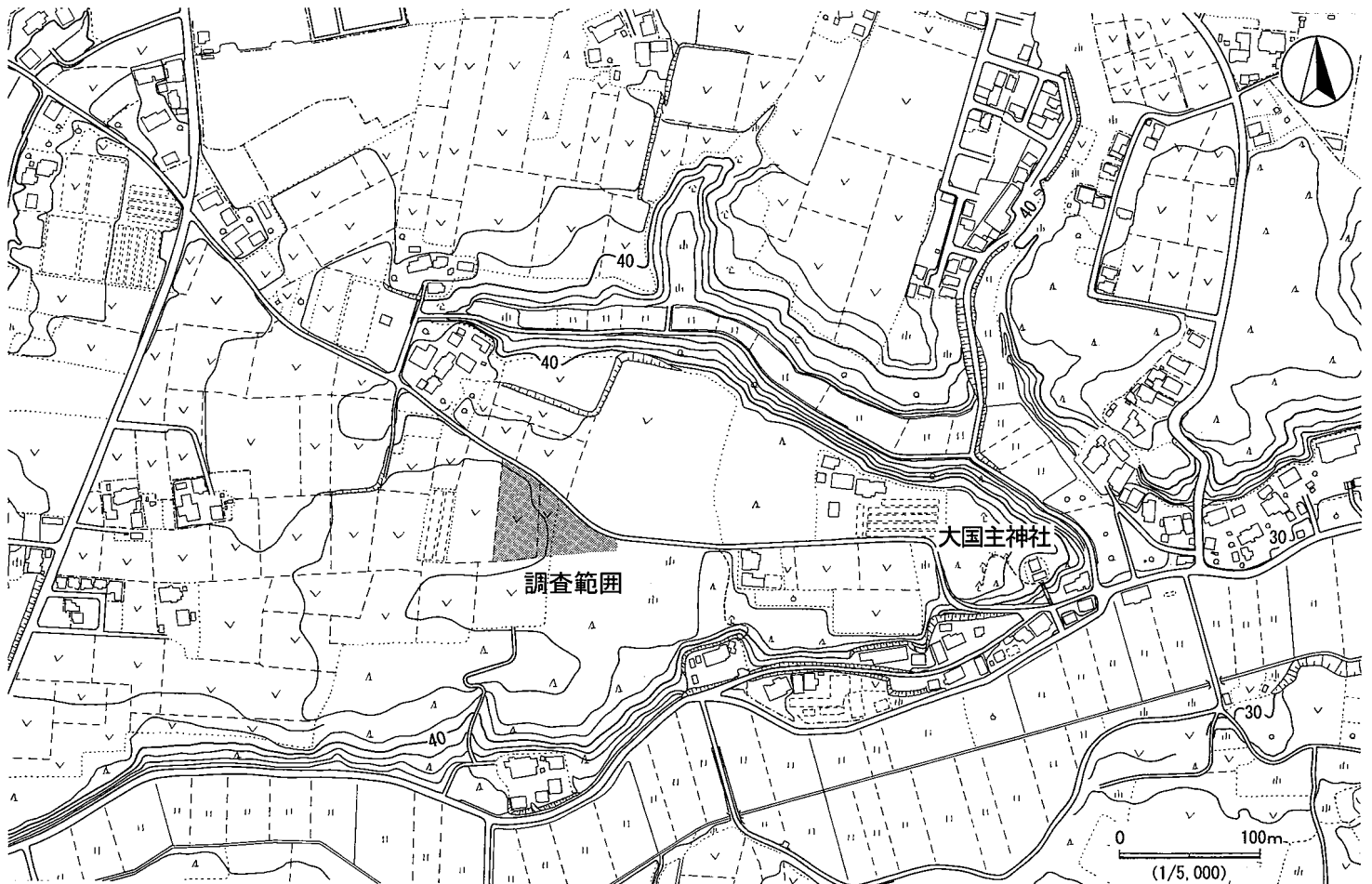
第1図 宮ノ台遺跡位置図

拡張することで発掘調査を実施した。

下層はソフトローム層以下の層を対象に機械と人力を併用し、武蔵野ローム層上面まで遺物の有無を確認した。上層同様に遺物の検出された部分の拡張・周辺の確認を行い、調査を実施した。上層と同様に下層も本調査には至らずに確認調査で終了した。確認調査で終了したため、引き続き整理作業を行い報告書を刊行した。

3 遺跡の位置と周辺の環境

宮ノ台遺跡の位置する遺跡周辺の北総台地は、太平洋に流入する作田川の支流境川の最上流部に位置し、一部に谷が入り込み水田として耕作がなされ、台地上には広範で平坦な畑・山林が形成されている。八街・山武・富里各市の境界付近に位置し、太平洋と印旛沼への分水嶺にも近い。台地は東から入り込む谷に南北を挟まれてやや舌状の形状を示し、南側に入り込む谷は大きく、遺跡より更に奥部へ入り込み水田が比較的広く営まれている。北側の谷は小規模で遺跡近辺で谷頭となっている。入り込んでいる谷の標高は約30m、遺跡の位置する台地上は約44mである。台地上の東先端部には大国主神社が営まれほぼ平坦な状態が続く。調査地は台地のほぼ中央の最高所に位置し、現況では西側は耕作の行われる畑、東側は杉林となっていた。杉林は伐採後に調査に着手した。畑はゴボウの耕作による深耕で攪乱が著しく、杉林は遺存状態が良好であった。周辺には縄文早期の条痕文や捺糸文、沈線文系の土器の出土する遺跡等、縄文時代の遺物を出土する遺跡が知られる。



第2図 宮ノ台遺跡周辺地形図

II 調査成果

1 遺構

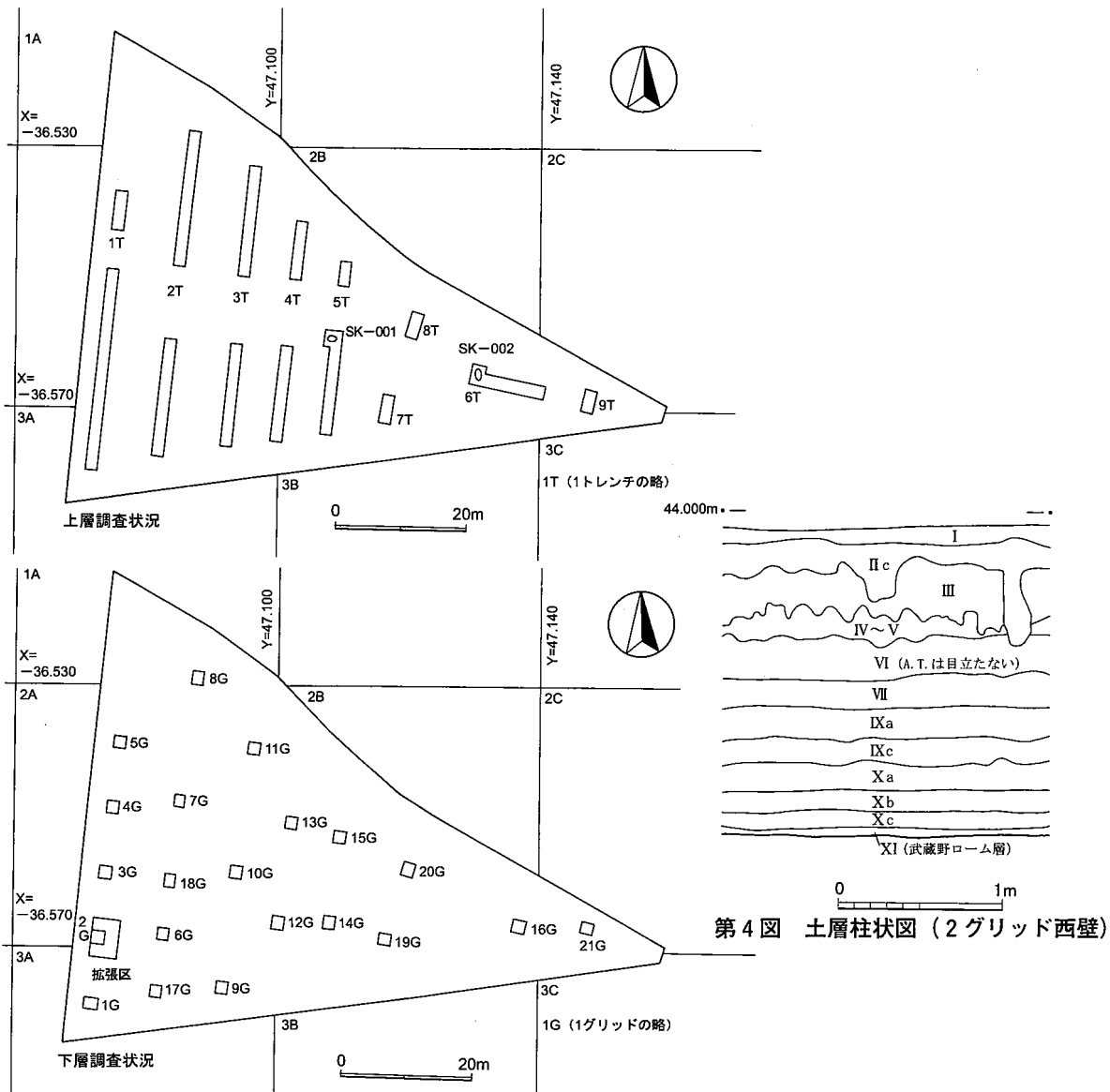
上層の確認調査トレンチからは、5トレンチ中央付近から土坑が1基（SK-001）、6トレンチの中央付近から炉穴が1基（SK-002）検出され、トレンチを一部拡張し遺構の精査を実施した。

SK-001

5トレンチの中央付近から検出され、ソフトロームの中に掘り込まれており、長軸長1.6m、短軸長0.9m、深さは0.7mを測る。やや不整形な楕円形で、ほぼ東西方向に長軸を向け、覆土は黒褐色土を主としている。遺物は出土しなかった。

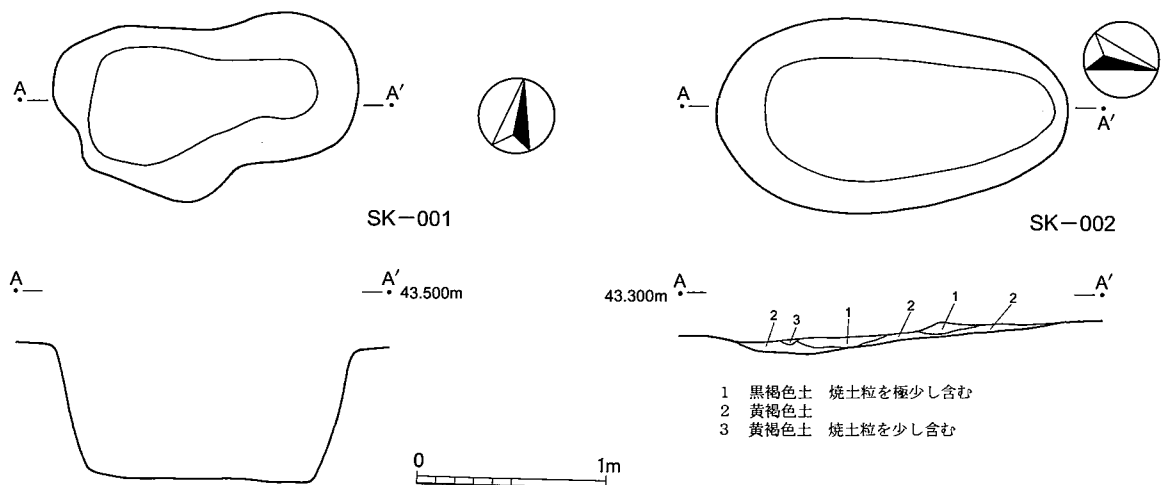
SK-002

調査区の山林部分の6トレンチ中央付近から検出され、ソフトローム上面にごく僅かに焼土と暗褐色土の混じった掘り込みが検出された。形状は楕円形状で長軸長が1.85m、短軸長が0.9m、掘り込みの深さは非常に浅く0.1mほどで、浅い皿状である。覆土は一部にごく僅かに焼土粒が含まれる部分があるが、底面はほとんど焼けておらず硬化もしていない。遺物は、出土しなかった。短期間利用の炉穴であろう。



第3図 確認調査 (上・下層) 状況図

第4図 土層柱状図 (2グリッド西壁)



第5図 遺構実測図

2 遺物

上層の確認調査からは、1トレンチ内から土師器の小片が1点検出されたが、図示できるものではなく図版でのみ提示する。確認調査では、土師器片に見合う時期の遺構は全く検出されなかった。周辺からも該期の集落遺構が検出される可能性は低かろうが、活動の痕跡が確認できた。

下層の確認調査のグリッドでは、2グリッドの調査最下層にあたるXc層付近層中から黒曜石の破片が1点検出され、周辺を拡張し(2G拡張区)調査を行ったが単独出土であった。長さ9mm、幅7mm、厚さ2mm、重量0.05gの漆黒色の黒曜石である。また13グリッドの耕作による攪乱中から黒曜石の破片が1点検出された。これも周辺から更に出土することなく単独の検出にとどまった。長さ8mm、幅6mm、厚さ6mm、重量は0.26gの漆黒色の黒曜石である。両者は図示するには至らず図版での紹介にとどめ、両者の黒曜石は類似するが、出土状況から同一文化層に起因する遺物とは見られない。今回の調査では旧石器時代資料を検出できたが、文化様相復元の手助けとなる様な資料を得るには至らなかった。

Ⅲ まとめ

今回の調査では、土坑1基、炉穴1基の検出がされたものの、時期を確定できる出土遺物がなく、遺跡周辺の文化様相の復元に対して資料的には不足であった。遺物についても、奈良・平安時代の土師器片から該期の活動の痕跡が確認できるのみであった。また、黒曜石の出土についても、両者は同一文化の所産とは考えがたく、文化様相の復元へは資料的に非常に乏しいと言える。しかし、異なる文化層での遺物の検出ということから、当該地における多時期に亘る文化活動の証拠として提示することができ、今後の本遺跡周辺における文化活動の痕跡確認の必要性を得ることができたといえよう。



調査前 (畑地)



調査前 (山林)



調査前 (畑地)



上層確認調査状況



下層確認調査状況



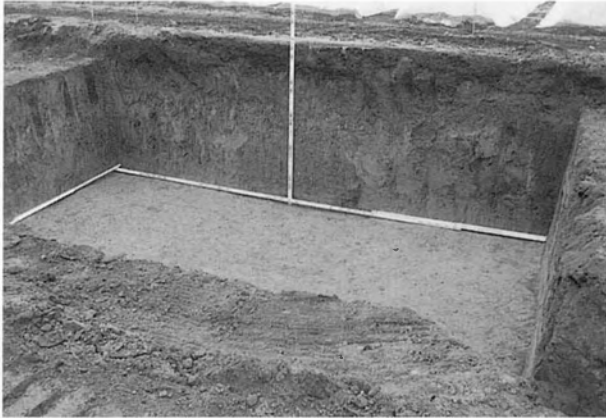
上層確認調査状況



上層確認調査 2トレンチ



下層確認調査 2グリッド (土層断面)



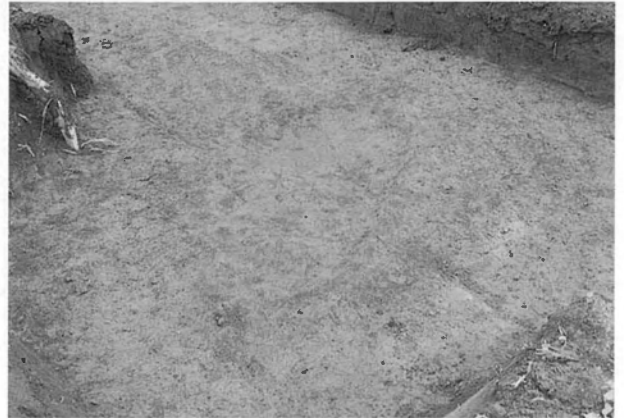
下層 2 グリッド拡張区



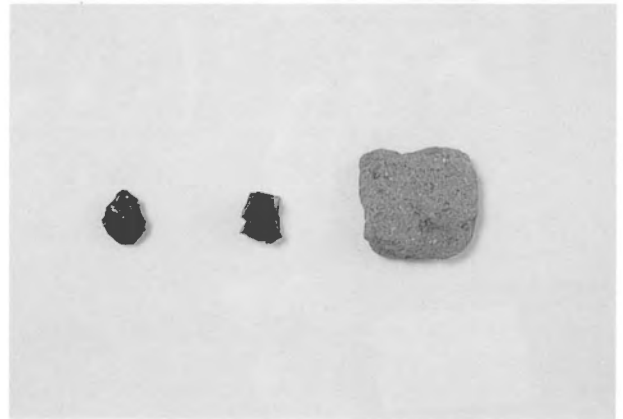
下層 2 グリッド拡張区



SK-001



SK-002



出土遺物 (左から2グリッド (長さ9mm), 13グリッド, 1トレンチ (2グリッド)) 裏面



報告書抄録

ふりがな	さんむしみやのだいせいせき							
書名	山武市宮ノ台遺跡							
副書名	国営北総中央農業水利事業4号調整水槽建設工事に伴う埋蔵文化財調査報告書							
巻次								
シリーズ名	千葉県教育振興財団調査報告							
シリーズ番号	第603集							
編著者名	加藤正信							
編集機関	財団法人千葉県教育振興財団 文化財センター							
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809番地の2				Tel. 043-424-4848			
発行年月日	西暦 2008 年 3 月 13 日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯 東経		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	世界測地系				
みやのだいせいせき 宮ノ台遺跡	さんむし おきわたしあざ 山武市沖渡字 ほりのうち 堀ノ内86-11ほか	12327	002	35 度 40 分 9 秒	140 度 21 分 12 秒	20080115～ 20080131	3,241 m ²	北総調整水槽工事に伴う埋蔵文化財調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
宮ノ台遺跡	包蔵地	旧石器時代 奈良・平安時代 時期不明	石器出土地点 2地点 なし 土坑1, 炉穴1	石器 土師器 なし				

千葉県教育振興財団調査報告第603集

山武市宮ノ台遺跡

—国営北総中央農業水利事業4号調整水槽建設工事に伴う

埋蔵文化財調査報告書—

平成20年3月13日発行

編	集	財団法人 千葉県教育振興財団 文化財センター
発	行	関東農政局北総中央農業水利事業所 八街市八街に456-1 財団法人 千葉県教育振興財団 四街道市鹿渡809番地の2
印	刷	株式会社 東 プ リ 船橋市咲が丘1-11-9